

# 教研式社会性発達検査から見た 本校児童生徒の社会性発達について

石川県立ろう学校社会科研究部

木 村 昭 文  
故 前 田 孝 子

## 1 目 的

聴覚障害を有する ろう幼児は言語生活から隔絶されて学齢に達する。そのみならず偏見から或は溺愛から、社会的な生活にも不慣れで必要以上に保護されて身体的な生長だけを続ける、といった状態である。故に彼等の社会性発達が普通児のそれに比べて甚だ遅滞しているということは想像出来る。しかしおくらしていることは誰しも認めてもその程度がわからない。大体何年位おくらしているか数量的に出そうとしたのが本検査である。全校生徒について行えば良かったが現在では6歳～10歳の検査しか作られておらず、従って6歳～10歳児を対象とした。

## 2 検査月日

昭和32年7月20日

## 3 検査方法

教研式社会性発達検査

いくつかの項目に対して2.1.0（できる、わからない、できない）というふうに評価した。検査者は各担任が主で、父母、寮母の意見もきいた。（故に厳密に言えば、学校という一つの社会集団における社会性発達といえるかも知れない。しかし父兄にしても案外我が子に対して無関心でかえって教師の観察がするどく行届いている場合もあった。）

## 4 被 検 者

本校小学部生徒 68人

6 歳	6 人 ( 3	3 )
7 歳	18 人 (12	6 )
8 歳	13 人 (10	3 )
9 歳	16 人 ( 9	7 )
10 歳	15 人 ( 8	7 )
計 (男児		女児)

## 5 結 果

結果は第一表を参照されたい。

(註) 表中のⅠⅡⅢⅣは次の如くである。

Ⅰ 自 主 性

Ⅱ 対 人 関 係

Ⅲ 言 語, 常 識

Ⅳ 仕 事, 作 業

第一表

	平均 満年 齢	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		平 均 総得点	S.A	S.Q	評価 段階	CA-SA
		平均 得点	評価 段階	平均 得点	評価 段階	平均 得点	評価 段階	平均 得点	評価 段階					
6 歳	6.8	10	2	9	1	5	1	12	1	35	4.10	73	1	-1.10
7 歳	7.6	16	3	17	3	13	2	21	2	69	6.8	89	2	-0.10
8 歳	8.5	18	2	20	3	15	2	21	2	73	6.11	82	2	-1.6
9 歳	9.5	27	3	27	3	27	2	28	3	109	8.10	94	3	-0.7
10歳	10.4	29	2	27	2	30	2	27	2	114	9.1	88	2	-1.3

## 6 考 察

目的のところでも述べた通り本研究は「ろう児の社会性発達」の数量的研究である。従って第一表にすべてが語られている。しかし簡単に説明すると

- ① 本校の児童の社会性発達に平均7ヵ月から1年10ヵ月おくられていることがわかる。
- ② 特にⅢの言語、常識が劣っていることがわかる。

だいたい以上二点が大きな問題である。

- A 本検査そのものが完全なものと考えられない。

というのは評定をする場合に、同一人がすれば、このような検査方法も多少の欠点は除かれるが、それは不可能に近く、かといって父兄のみに評定させるのは信頼性が薄く納得しがたい。

- B 未だに学齢期に入学せず、おくらせて入学する児童があるため学年単位で集計が出来ない。(強行しても無意味であると思う。)

それ故学校生活が ろう児の社会性発達にいかにか影響しているか現在データを出すことが出来ない。

- C このデータを集計して感じたことは、このデータは全校的なもの即ち統計的なものの対象よりむしろ個人指導・生活指導の資料として活用される道が開かれるべきだと考えられる。